

# 春風秋霜 4月号

令和4年4月8日  
島田市教育委員会だより  
教育長 山中 史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

## 1 令和4年度に向けて（はじめに）

3月25日に、島田市議会の皆様より同意をいただきました。4月1日に染谷市長より教育長としての辞令をいただきました。教育長を拝命し、身の引き締まる思いを感じるとともに、島田市の教育行政を動かしていく重責をあらためて感じております。

少し昔の話をさせていただきます。私は、大学4年生の時の教育実習を島田第三小学校で行いました。当時4年生のクラスに実習生として入りました。今から40年以上前の話です。その後、大学を卒業して正式に教員となって配属された学校が、何と島田第三小学校だったのです。そして、5年生の担任として配属されましたので、前年度教育実習と一緒に勉強をした子供たちの担任になったわけです。若い先生が担任になったということで、子供たちの多くは喜んでくれたのですが、実際に担任となると少々厳しいことも言わなければなりません。「こんなはずでは？」と思った子供たちもいたのではないのでしょうか。私が退職するときに当時の子供がお祝いの会を開いてくれました。とてもうれしかったです。40年も前に受け持った子供たちと今でもつながっていることが幸せだと思っています。

今回、私のことが新聞に載ったときも、多くの子供たちが連絡をくれました。教育という仕事は、人とつながっていける素敵な仕事だと思っています。

私は、「夢から始まる。」という言葉が好きです。せっかくの人生ですから「こんな自分になりたい。」という思いをもって生きていくことが大切だと思います。「こんな自分」というのは、その人が夢や目標をもつことから始まります。

教育長として、中野教育部長や各課の課長を中心に「チーム教育委員会」の絆を強く結び、職員が一丸となって、子供たちや市民の皆様のために仕事をしたいと考えています。

皆様、よろしく願いいたします。

## 2 2月議会から

学校教育に関わる質問は、4人の議員からありました。四ツ谷議員からは初倉地区の統合及び小中一貫教育について疑問視する質問でした。統合については100%賛成又は反対ということはありません。必ず大勢とは違う意見を持つ方はいると思います。初倉南小の学校運営協議会でも統合に反対の意見が出たそうです。しかし、議論を重ねる中で、「夢をもった積極的な閉校と受け止めたい」という意見でまとまったそうです。

小中一貫教育は、キャリア・パスポートを小中高と引き継ぐことから分かるように、文部科学省も学びの連続性を重視しています。島田市でもこれまで続けてきた小中連携を発展させ、4年前から教育方針の中に小中一貫教育を入れていました。人事面でも小中交流を進め、今年度末には8人の小中交流が実現しています。小中がそれぞれの良さを理解し、連続性のある教育の実現が大切です。

大関議員からは、特別支援教育に関わる質問でした。発達検査が滞らないように、検査のできる人材の増員や、特別支援学級や通級指導教室の対象児増加についても答えています。通常学級でも特別支援を要する子供が増加しています。そのため、教育のユニバーサルデザイン（UD）が求められています。

教育のUDは、教員の理解が欠かせません。文部科学省では、新採10年までに、特別支援教育を複数年経験すべきという検討が行われていると聞くので、今後は、今まで以上に全教職員が特別支援教育に関心を持たなくてはならないと思います。そのような中、島二中の特別支援学級担任の桐田教諭が文部科学大臣から優秀教員として表彰されたことは、島田市として大変うれしいことです。

横田川議員からは、いじめへの対応やスクールソーシャルワーカーについて質問されました。「いじめは、どの子供にも、どこでも起こり得るもの」という認識で、積極的認知に努めていると答えています。島田市のいじめ対策は、常葉大学の太田教授による5年間の研究に支えられています。そこから分かった知見を、日々の指導や子供たちへの接し方に生かして欲しいと思います。また、不登校や生徒指導の記録をきちんと整え、次年度に引き継ぐことも大切にして欲しいことです。

山本議員からは、部活動の地域移行についての質問がありました。保護者の一部は、情報不足から今後どうなるかに不安を覚えているようです。文部科学省からは、「令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図る」と示されています。島田市では、令和4年度から合同部活に取り組み、課題等の検証をし、地域部活へのソフトランディングを目指しています。子供たちの思いが大切にされる部活動にしたいと考えています。

提坂議員からは、過度な感染対策や同調圧力を避けて欲しいとの意見でした。学校は子供たちの学習を保障するために、感染対策を行っており、どちらも大切にしていると答えました。感染拡大が子供たちの学習機会を奪うことになり、親の就労にも影響していることも伝えています。提坂議員は、「コロナ禍において給食のお代わりができないため、お腹をすかせた子供がいた」と発言しています。もし、このような事実があれば、給食以外の問題にも目を向けなくてはなりません。

給食は、子供たちの成長に必要な量を提供しています。その量が足りず空腹を感じる子供は、家で十分な食事が採れていないことや、過度の過食傾向を疑う必要があります。このような発言を聞いた場合は、十分に配慮をお願いします。

## 肘かけ椅子

鈴木 龍彦 教育総務課長

### 「季節に思うこと」

桜も、もうすぐ満開。薄紅と萌黄色のコントラストが優しさを醸し出し、通勤の忙しさも和むこの頃。

中でも、その柔らかさに包み込まれたいような気持ちにさせる柳の新緑。河原に在り強風や増水の災害に遭い、折られても切られても、何事もなかったかのように優しさを芽吹く。毎年、この自然の営みに感謝と敬意を覚えるのに、日々に追われ、いつしか記憶から遠ざかる。

この季節は、新たなステージへと羽ばたく先輩方を見送るときでもある。思い出が走馬灯のように蘇る。その多くは教えていただいていたことへの感謝に尽きる。油断への優しい戒めや、知らないうちにしていただいていたサポート。

ずいぶん昔に知った言葉に「燈々無尽」がある。

最近ようやく、その意味をかみしめるようになってはきたが、特別の何かができるわけでもない。新たな出会いや発見に思いを馳せ、これまでどおり感謝しながら日々を過ごしていきたい。